

# 近世人物誌

やまと新聞附録(甲)

錦織剛清  
 錦織剛清氏、旧中村藩士、其  
 旧主誠胤君の疾病の爲め監中を憂  
 苦せらるゝ言ふを聞かざりて之を  
 救ふ事を思ひ立、其邸内を浸  
 入して遂に警察官の聴く所となり  
 随つてこの事の世に傳播せし、當  
 時は有つて此義を唱ふる者、氏言入  
 の故、旧主をして自由の空氣を  
 吸ふ事能はせ、其後誠胤君の  
 何等の都合ありて、本邸の顛狂院に  
 移され依然監中ありしを、或る日  
 氏之は浸入して旧主を伴ひ出  
 静岡地方へ趣き、より勿ち世上の  
 一問題となり爲り、氏の家宅浸入の罪  
 を以て處刑となりたり、氏の目的の當  
 不當、姑ら論せざ、旧主を想ふ義氣  
 於て誰か感ぜざる者ありん、是於  
 て、氏の處刑中其家族へ多少の金圓  
 と寄贈し、寒を救ふ者幾百人といふ  
 知を彼の新吉原町の如き花柳艶美  
 の街、虽も氏の義氣を欽慕、氏の  
 豫て而を能く、是以て本年七月  
 り粧飾せ、燈籠の繪を氏に誌  
 たる向き多りや、



發行所 東京 京橋区 又本と新聞社  
 編輯人 奥隅依二  
 印刷人 中野文三

商工部

